

「疑似体験と想像力」



西尾修欣教育委員

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」ドイツの政治家ビスマルクの言葉です。良いことであれ悪いことであれ、自分自身が身をもって経験しなければ理解できない、というのは愚かしいことである、という意味です。また過去の歴史を学ぶことは、これからの歴史を作り上げるための大切な手本を知ることになる、とも云えます。私なりに少し拡大解釈をしてみます。過去の偉人賢人といわれる先人たち、また身近な親世代や先輩のような年長者たち、否この際同僚も後輩も含めて、自分以外の人たちがとった行動や考え方は、たとえ自分自身が経験しなくても自分の疑似体験として蓄積されるべきであり、そしてそれはその人のその後の人生に大きく役立つはずである。皆さんはどう思われるでしょうか。そういう意味において自分以外はすべてが先生だとも言えます。いちいち自分自身が痛い思いをしなければ、他人の痛みを思いやることができないようでは、日常生活においても不自由です。そのために歴史という疑似体験を積み上げ想像力を身に付けることが大切だと思います。そんな想像力を育むためにも私たち大人は自分の経験してきたことや考えを、積極的に子どもたちに示してあげるといいのではないのでしょうか。時には失敗談なんかも織り交ぜながら、いやその失敗談こそが子どもたちにとっては貴重な疑似体験になるのではと思います。

「子ども司書講座」活動報告

（恵那市中央図書館）



中央図書館（伊藤文庫）では、「いつでも どこでも 本を」を目指して、子どもから大人まで全ての市民が生涯にわたって学び続けていくよう「読書活動の推進」を進めています。

昨年度、「第三次恵那市子どもの読書活動推進計画」を策定しました。この計画では、子どもが読書に親しむ機会の提供、読書環境の整備、そして、読書活動を推進するための人材育成の3つを基本目標に定め、子どもの発達段階に応じた取り組みにより、子どもの読書離れを防ぎ、読書習慣の形成に努めていきます。この計画の取り組み事業の1つとして、今回は「子ども司書講座」を紹介します。

これは、小学校高学年を対象に、図書館の仕事や役割について学ぶことで本に関心をもち、子ども同士で読書を広めていく活動のリーダーとなるよう、毎年夏休みの期間に行っているものです。

市内から15名の児童が参加し、本の分類や整理、百科事典を使った調べ学習、窓口業務、本の修理体験、最終日には自分のお薦め本を紹介するミニブリオバトルなど全4回の講座を受講しました。今年も新たな子ども司書が誕生しました。



ポーランド共和国カヌー連盟と事前キャンプの基本協定締結

(スポーツ課)

来年、2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会（東京 2020 大会）が開催されます。市では大会を機に漕艇練習場の整備を行い、ナショナルチームの事前キャンプ誘致することとなりました。平成 28 年 7 月には、観光振興、地域の活性化および国内屈指のボート・カヌー練習場を有するまちとしての魅力を高めることを目的に「東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地恵那市誘致協議会」を設置し、以降、積極的な誘致活動を推進してきました。



その取り組みの中、2019 年 4 月 29 日には、ポーランド共和国カヌー連盟による「東京 2020 大会」の事前キャンプ地としての視察が「笠置峡ボート・カヌー場」で行われ、6 月 12 日には同連盟会長名にて、恵那市を「東京 2020 大会」の事前キャンプ地に決定したとの通知がありました。

また、9 月 12 日には、ポーランド共和国カヌー連盟会長が恵那市を訪れ、恵那市との間で事前キャンプに関する基本協定の調印式が行われました。これにより、「笠置峡ボート・カヌー場」が、ポーランド共和国カヌー連盟による「東京 2020 大会」の事前キャンプ地に、正式に決定いたしました。

カヌー競技において、ポーランドはドイツ、ロシア、ハンガリーと並ぶ世界 4 強国の 1 つであり、「東京 2020 大会」のゴールドメダルの最有力候補の選手を有しています。恵那市で練習した選手がメダルを獲得すれば、練習地・トレーニング施設などは将来にわたり、子どもたちに夢と希望を与えるオリンピックレガシーとなり、地域の活性化および恵那市のスポーツ振興に大きな影響を与えることになるはずです。ポーランドカヌーチームが「東京 2020 大会」で最高のパフォーマンスを発揮できるよう、恵那市一丸となって支援したいと思います。



恵那文化センター大ホール天井耐震化工事

(恵那文化センター)



地震などにより天井・壁が落ちて重大な危険（危害）が予想される「特定天井」について、建築基準法が平成 28 年 6 月 1 日に改正されました。恵那文化センター大ホールの天井も「特定天井」に該当することから、平成 31 年 3 月 20 日から令和元年 9 月 17 日の工期で大ホールの天井等耐震化工事を行いました。このたび工事が完了し、大ホールは安全な施設へと生まれ変わりました。

7 月 20 日（土）に開催した「こどもフェスタ 2019」では、出展ブースの 1 つとして工事の様子を子どもたちに見せようと「工事現場見学会」を開催しました。普段では見ることも、立ち入ることのできない工事現場を現場監督者の指導の下、延べ 250 人の参加者に見ていただきました。建設工事現場の作業の様子、ヘルメットなどの安全装備を付けて仮設足場を登るなど、貴重な体験ができ、子どもたちに建設業について興味を持ってもらうための良い機会となりました。

10 月 9 日（水）には、大ホールの改修工事完成記念として「クラシック鑑賞会 20 名編成の弦楽オーケストラ」のコンサートを行います。新しくなった大ホールでオーケストラの素晴らしい音楽を鑑賞してみてください。

